

県議会 2月定例会

09年度補正予算を議決



2010年3月7日
第90号
発行
日本共産党県議会議員
渡辺 ゆり子
<連絡先>
日本共産党県議団執務室
電話 023-630-3241(受付)
自宅：山形市青田2-10-5
電話 023-642-2365

厚生文化常任委員会で 質問

2月22日、各常任委員会で2009年度に関わる補正予算案をはじめとする議案を審議し、23日の本会議で全会一致で議決しました。

補正予算案は、国の2次補

正に対応した景気・雇用対策の上積み一方で、事業実績や貸付の減などで差し引き89億6600万円の減額となっています。

景気・雇用対策としては、2月補正と2010年度当初予算を一体的に執行し、切れ

目なく実施するとして、企業への資金繰り対策を含め、合わせて816億円の規模となっています。

私は、22日に開かれた厚生文化常任委員会で、補正予算を組むことになった要因や課題について取り上げました。

子育て支援医療費 一層の充実を

一層の充実を

7月から小学生の入院医療費に支給を広げましたが、見込みより6125万5000円の増額となっています。

その要因について質問したのに対し、中山順子子ども家庭課長は、「インフルエンザの影響と、収入減により92%台をカバーしていた制度対象者が94%にまで広がったことなどが考えられる」と答えました。

さらに、私は「多

くの方が助成を受け、助かったということになる。本来、国としての子ども医療費制度の確立をすべきだし、県としても制度拡充を図るべきだと思つがどうか」と質しました。



中山課長は、「国の制度確立については、引き続き要望していく。県内自治体が県より上乘せして進めていることは承知しているが、小学生の入院へ拡充したばか

生活保護 住宅手当に関する増額

りで、状況を見ていく。対応できるか検討したい」と答えました。

昨年10月から、国の対策で失業者などに対する住宅手当支給(6カ月の家賃補助)が実施されていますが、補正として住宅手当緊急特別措置事業費4億9300万円余り計上されました。

となつている。今回の特別措置の内容は、3カ月の支給延長と対象者の要件緩和などが盛り込まれており、新年度に各自治体と県総合支庁で対応するため、基金に積み立てるものであります」と答えました。

これまでの実績と事業の内容について質問したのに対し、熊澤真・地域福祉課長は、「1月までで県内86人の方が支給対象

そのうえで、私は「生活保護の窓口や社会福祉協議会の窓口は、相談者が増加し、就労生活支援のていねいな相談対応が求

今議会には、「第3次山形県総合発展計画長期構想」が議案として上程されています。

今後10年間を見通した中長期的な政策の方向性を示し、

各常任委員の総合計画も審議されます。

各常任委員の考え方を示して、

共産党県議団は、この長期構想についても、

策定にあたって、人口減少や経済危機などの社会情勢の変化の影響、雇用の喪失、格差

の拡大や固定化、社会保障制度の持続に対する県民不安が拡大しているとして、しっかりと対応できる生活の基盤を再構築していくことが重要と

共産党県議団は、この長期構想についても、

共産党県議団は、この長期構想についても、

共産党県議団は、この長期構想についても、



学習会で大型溶融炉の問題点を指摘する青山貞一・東京都大教授(右端) = 2月28日、山形市

新清掃工場の再考を求め 学習会に参加

2月28日、「ごみ問題を考える山形の会」と、柏木新清掃工場の再考を求める会、「新清掃工場を考える市民連絡協議会」が共催した新清掃工場の再考を求める学習会に参加しました。

山形、上山、高畠などから130人が参加しました。

められている。そのための人員・予算も十分確保すべきである」と主張しました。

度は、就労・生活支援を強化する方向で予算措置が見込まれている」と答えました。



予算書と格闘中



2010年度県予算案には、これまでない特徴があります。

国の09年度の経済対策である前政権と新政権の補正、交付金の積み立て、積み増しなどがあり、複雑になっていることです。

通常は、年度ごとの予算なのですが、2〜3年分にあたるようなものもあり、あちこち資料を読むだけでも、あつとつという間に時間が過ぎてしまいます。

また、政権交代で、施策や制度の変更や見直しについても把握すべきことが多くあります。そのうえで県の姿勢がどうなのか、チェックしなければなりません。

県議団は、当局や関係者に聞き取りをしながら、夜遅くまで議案検討会をやっています。

例年にも増してハードな新年度予算検討作業ですが、県民のみなさんに付託された役割をしっかりと果たすべく、予算書と格闘中です。

